

医療連携室だより 第14号

平成18年8月発行 公立置賜総合病院医療連携室 ☎0238-46-5000 内線1901,1902

病診連携と医歯連携



歯科口腔外科 科長 安川 和夫

公立置賜総合病院は平成12年11月1日に開院し、すでに5年8ヶ月が経ちました。歯科口腔外科においても開院直後から、置賜地区の歯科診療所の先生方から多くのご紹介をいただくとともに、73名もの置賜地域の先生方に病院の登録医となっていただきました。誌面を借りて厚く御礼申し上げます。また、歯科だけでなく、一般診療所や病院の先生方におかれましては、歯科口腔外科に関する患者様を多数ご紹介いただいただけでなく、当科で外科的治療をする患者様の全身疾患に関する病状照会に対して、適切でかつ詳細な医療情報提供をいただき誠にありがとうございました。

ここで、平成13年1月1日から平成17年12月31日までの5年間の病診連携に関する患者動向の一端をお示しいたします。新患患者数は9,741名で年平均1,948名ですが、受診患者数は増加傾向にあります。地域別患者数は長井市2,650名、南陽市2,240名、川西町1,506名、飯豊町715名、米沢市757名、白鷹町721名、小国町303名、高畠町664名、置賜以外は176名でした。紹介患者数は、3,652名でその内訳は一般歯科診療所3,215名、一般診療所216名、病院204名、その他17名、紹介率は37.5%で、紹介率には入りませんが、院内およびサテライト医療施設からの紹介が1,554名でした。紹介施設の地域別分布は、長井市1,169名、南陽市951名、川西町335名、飯豊町27名、米沢市433名、白鷹町229名、小国町47名、高畠町327名、その他134名でした。

また、入院患者数は5年間で724名、その中に占める紹介患者数は547名で、一般歯科診療所から485名、一般診療所から19名、病院から44名、救急から42名でした。誌面の関係からその詳細はあらためて別の機会にしたいと思いますが、以上のように置賜全域から多数の紹介をいただきました。

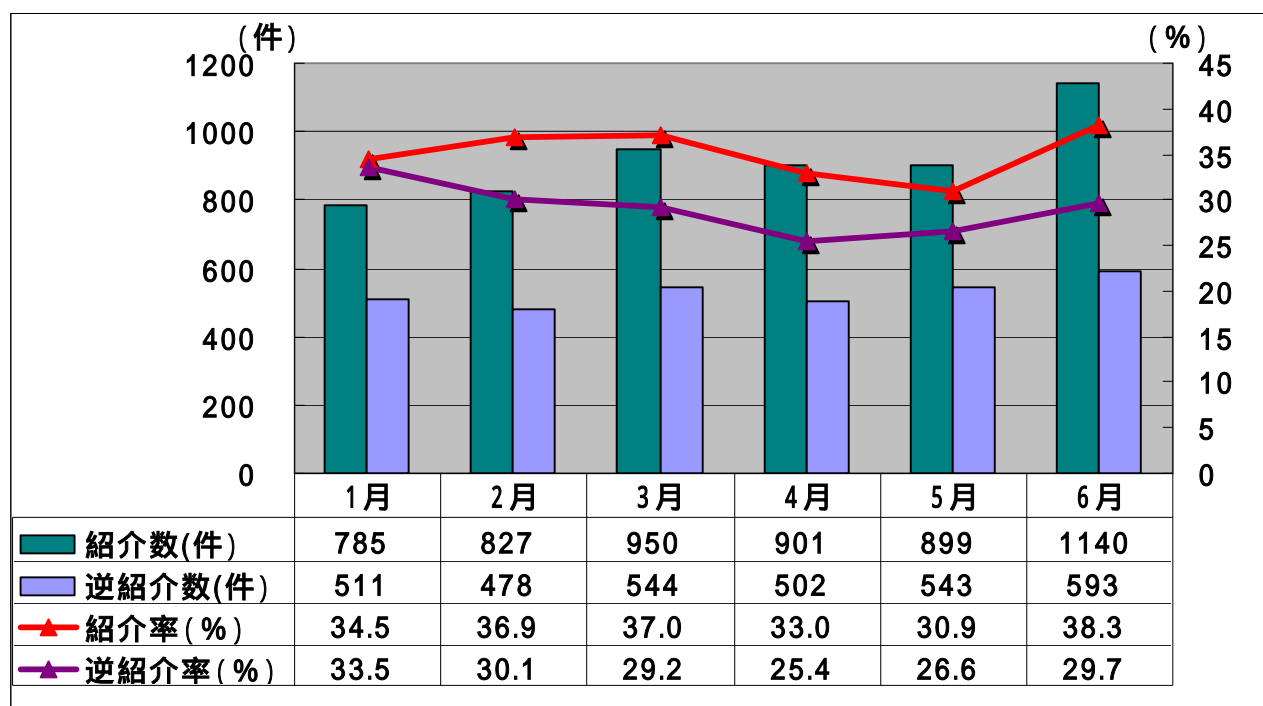
歯科口腔外科は歯科医療の一分野ではありますが、その診療内容は歯牙や歯肉の疾患に留まらず、口腔感染症、口腔腫瘍、顎骨嚢胞、外傷、顎関節疾患、口腔粘膜疾患、口腔心身症など、口腔および口腔周囲の比較的広い疾患群を治療対象としております。また、今後は誤嚥性肺炎に対する予防効果が確立された口腔ケアや、脳血管障害における嚥下障害に対する摂食嚥下訓練など、医科と歯科が協力する必要がある医療分野も増加傾向にあるため、積極的に取り組んでいきたいと考えております。さらに、最近口腔疾患と全身との関わりが注目されております。一例としては、歯周病

の菌による心臓血管病変や糖尿病など全身疾患のリスクファクターへの関与、あるいは歯科用金属によるアレルギー疾患など、歯科疾患と全身疾患との関わりが徐々に解明されてきております。もし、何か口腔の病変が関連すると思われる症状あるは、疾患がありましたら、是非お声掛けください。病診連携に加えて、医歯連携がさらに充実できれば幸いと考えております。

当科は、置賜地域では唯一の病院歯科口腔外科であるため、米沢を含めた広い地域の医療機関から紹介される比率が多く、外来はその対応のためにいつも、混雑しており、「待ち時間が長い」等、患者様からのお叱りの言葉を頂戴することも多々あります。ご紹介いただきますときは、できるだけ医療連携室を通して、予約を取っていただくようお願いいたします。

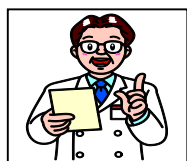


最近6ヶ月の紹介件数、逆紹介件数等の推移



おかげさまで持ちまして、診療所等の先生からの患者さんの紹介件数、紹介率とも順調に推移しております。

また、当院から診療所等へ紹介いたしました件数(逆紹介)も、紹介率の伸びとともに逆紹介率も伸びております。



これからも患者さんが適切な医療を受けられますよう、かかりつけ医の奨励、逆紹介の推進を図って参ります。

年度平均	17年度	16年度
紹介数(件)	920	858
紹介率(%)	35.6	32.5
逆紹介数(件)	551	530
逆紹介率(%)	29.1	24.3

総合病院の上手な利用の仕方 パート1

POINT 1

かかりつけ医を持ちましょう

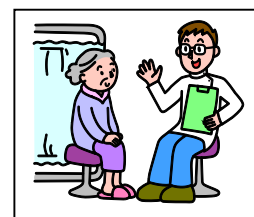
かかりつけ医とは、私たちの身近にいて、日頃から健康相談をしたり、病気になったときは初期の医療を行う医師をいいます。そして、必要であれば、適切な専門医に情報を添えて紹介します。

かかりつけ医は普段の健康状態やこれまでの病歴など、多くの状態を知っているため、私たちの健康な生活をおくる上で支えとなります。

このような、かかりつけ医と総合病院の役割体制が地域内に確立されることで、治療効果や患者サービスの向上が図れるのです。

たとえば、熱があるだけで、総合病院にかかったら長時間待たされ、あげくに診察がわずかな時間だったということをよく聞きます。そんなときは、まずかかりつけ医を受診すれば、待ち時間も少なく診察を受けることが出来ます。

そこで、私たち自身が、総合病院と医院の役割をみきわめ、そのときの症状にあった医療機関を選択することも必要です。



POINT 2

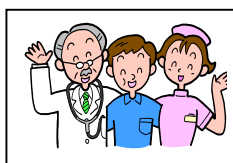
新しい医療の考え方

今日の医療環境では、一つの医療機関のみで患者さんの診断から治療、経過観察までの全てを行うことは難しくなっております。

そのために公立置賜総合病院では、サテライト医療施設(公立置賜長井病院、公立置賜南陽病院、公立置賜川西診療所、飯豊町国保診療所)及び近隣の医療施設と連携、協力し合って、それぞれの役割を果たしながら医療にあたることを目標としております。

つまり、総合病院と医院の役割を分担し、地域での医療の連携をすすめ、それによって、住民の方々に大きなメリットをもたらす医療連携を推進しています。

それぞれの役割をみると、例えば健康管理や病気の初期の医療などは医院で、より専門的な医療や検査、入院は総合病院でということになります。



新

あなたが“いのちの主人公・からだの責任者”
医者にかかる10箇条

伝えたいことはメモして準備
対話の始まりはあいさつから
より良い関係づくりはあなたにも責任が
自覚症状と病歴はあなたの伝える大切な情報
これからの見通しを聞きましょう

その後の変化も伝える努力を
大事なことはメモをとって確認
納得できないときは何度でも質問を
医療にも不確実なことや限界がある
治療方法を決めるのはあなたです

ささえあい医療人権センターCOMLからの抜粋。

新任医師紹介

内科(呼吸器) 片桐 祐司 山形大学より
産婦人科 森 敏恵 公立高畠病院より

8月1日付けで着任いたしました。よろしくお願いたします。



D P C (包括医療)研修会の開催について (ご案内)

ぜひ、ご参加下さいますようお願いいたします。

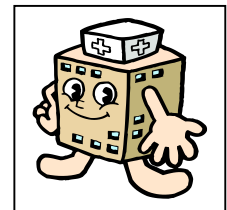
日時 8月25日(金)午後5時30分から

会場 公立置賜総合病院 2階大研修室

内容 演題「診断群分類・包括評価(D P C)の概要」

(日本の医療制度改革の視点から)

講師 中村 寛 氏(三菱ウェルファーマ株東北支店 企画担当課長)



問合せ先 診療情報管理室(内線 1426)

~~~~ 今年度の医療連携室スタッフです。~~~~



後列左から、主幹補佐/小野田新一、医療連携係長/田中 聡、紹介状担当/斉藤恵子、予約センター/遠藤由美子、予約センター/渡部裕希子、紹介状担当/安部亜津子

前列左から、主幹補佐(相談担当)/高橋清数、医療連携部長/山田昌弘、主幹補佐(看護担当)小松修子、医療連携主幹/今野 弘

下部、予約センター/橋本徳子

医療連携室は、2部屋(医療連携室と予約センター)に分かれており、診察のご予約や問い合わせ等にご不便をおかけしておりますが、今後ともよろしくお願いたします。